

## ■ネパール APNN に参加して

筆者にとってネパールは初めての国であった。

仕事の忙しさ、航空機乗り継ぎの面倒くささ…これらを考えると二の足を踏むところであるが、何よりもこの国の神秘的なイメージに引かれ、万難を排して（大げさではあるが）参加した。そうは言っても通常数か月前から参加者を募り、日本からの発表者を選び、内容のやり取りを重ね…意外に準備が大変な行事である。



素晴らしい木造建築の宝庫



ティーブレイクは眺めの良い屋上で

参加してみると同じような女性技術者科学者が「久しぶり〜！」という感じで飛びついてくるのが魅力でもあり、また他国の女性技術者・科学者からパワーを貰えるのも得難い経験で…ついつい参加してしまう。

当会のメンバーも同じように NEPAL 国の神秘性にひかれて沢山の人数（15名、歴代最高）が参加してくれた。

人数が多いという事は非常に心強いことで、中にはご主人とお父様を連れての参加もあり、start dinner は JICA でネパール在住の会員も参加してくれて氣勢をあげた。

さて、会議当日は通常と違い 2 日目がカントリーレポート、初日は技術発表であった。日本からは英語が堪能な Y さんが流暢な説明で難なくクリア。

翌日は若手の A さんがこれまた度胸の据わったカントリーレポートを披露してくれた…詳しくは参加報告参照。

加えて今回はティーブレイクに日本の「お茶」を披露した。お茶に精通しているメンバーが重い茶器と抹茶・干菓子を遠いネパールまで持参し皆様にふるまい、好評を得た。さてさて、お楽しみのガラナイトはネパールの民族舞踊と音楽を見ながらの食事を用意してくれていた。何処となく日本のルーツを感じさせるダンスと音楽と…なんととっても国民性の穏やかさがに染み出て、美味しく楽しいひと時を過ごさせていただいた。

最後に…日本とは全く習慣の違うネパールを想像していたが、案に諮らんや…非常にきちんとした準備、スマートで合理的な運営、そしてのんびりとしていながら仕事はきちんとこなす…そんな日本人に似ている NEPAL にカルチャーショックを抱きながら帰国した。



ヒマラヤの峰々

木村了記